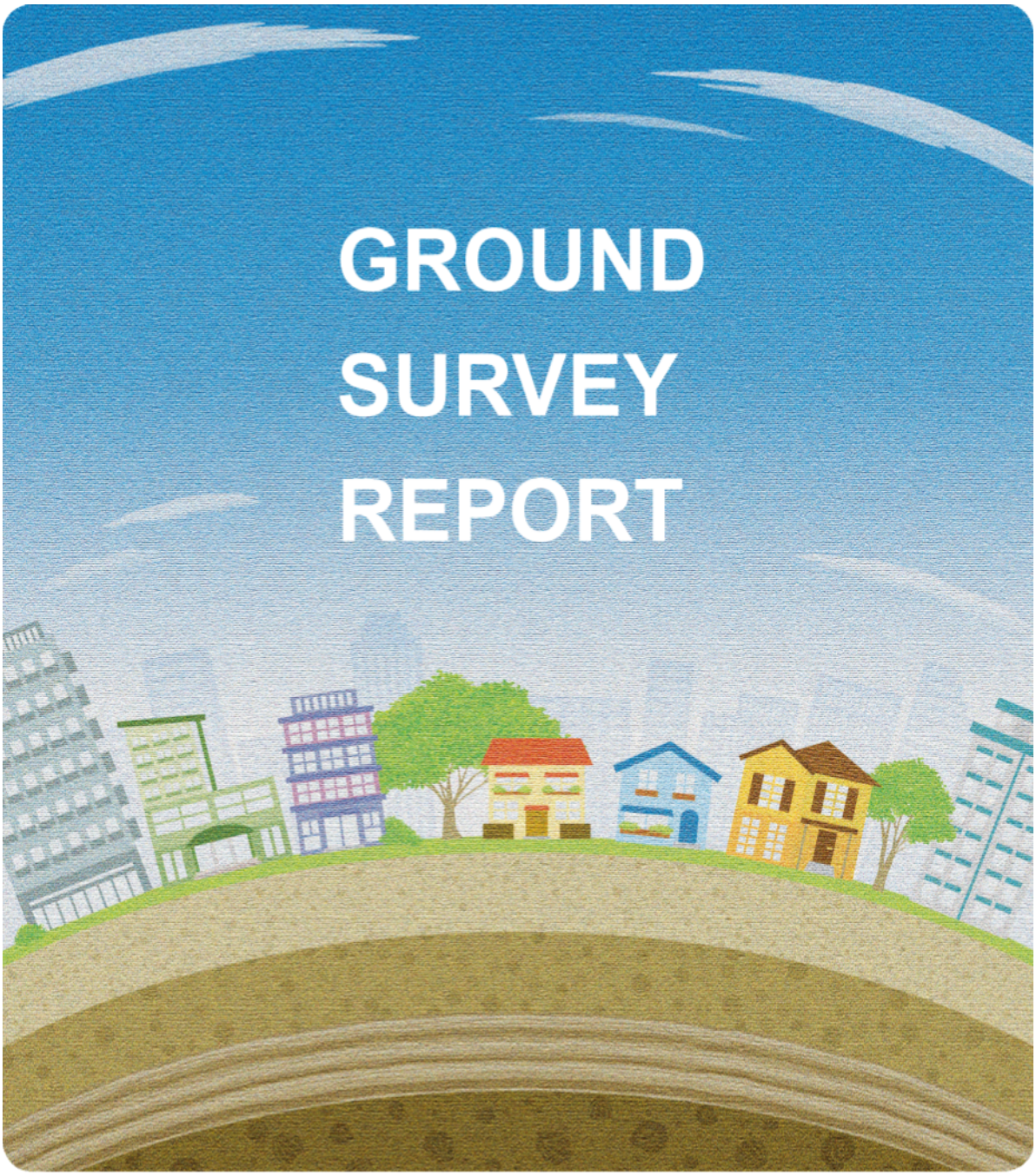


地 盤 調 査 報 告 書

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）

のと里山空港フードコート　新築工事

株式会社トラバース　https://www.travers.co.jp/

本　　社　〒272-0121 千葉県市川市末広2丁目4番10号　TEL;047-359-4011　FAX;047-359-1199
北陸営業所　TEL;076-269-1501　FAX;076-269-1502　E-Mail;kanazawa@travers.co.jp

調査概要

目的

本報告書は、建設予定地内においてスクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）をおこない、その敷地内における地盤の性状を知り、建設構造物、基礎設計に関する資料を得ることを目的とします。

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1
調査日	2024 年 10 月 8 日
天候	曇
試験者	石井　明
試験方法	JIS A1221スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）
機械の種類	半自動



資料調査

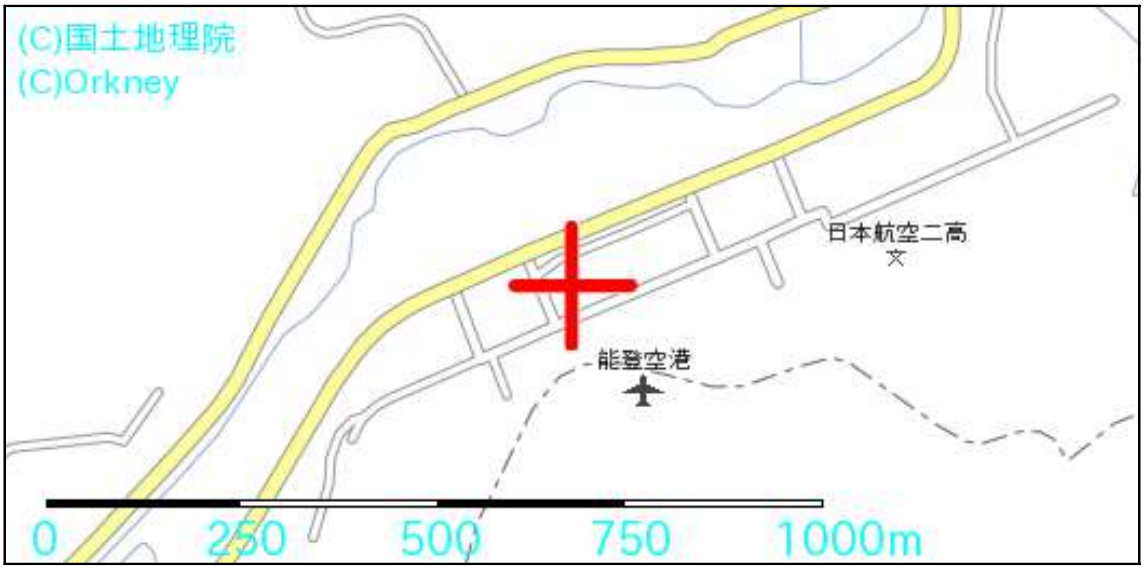
調査地地図



物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1

概要NO:03300009501

旧版地形図

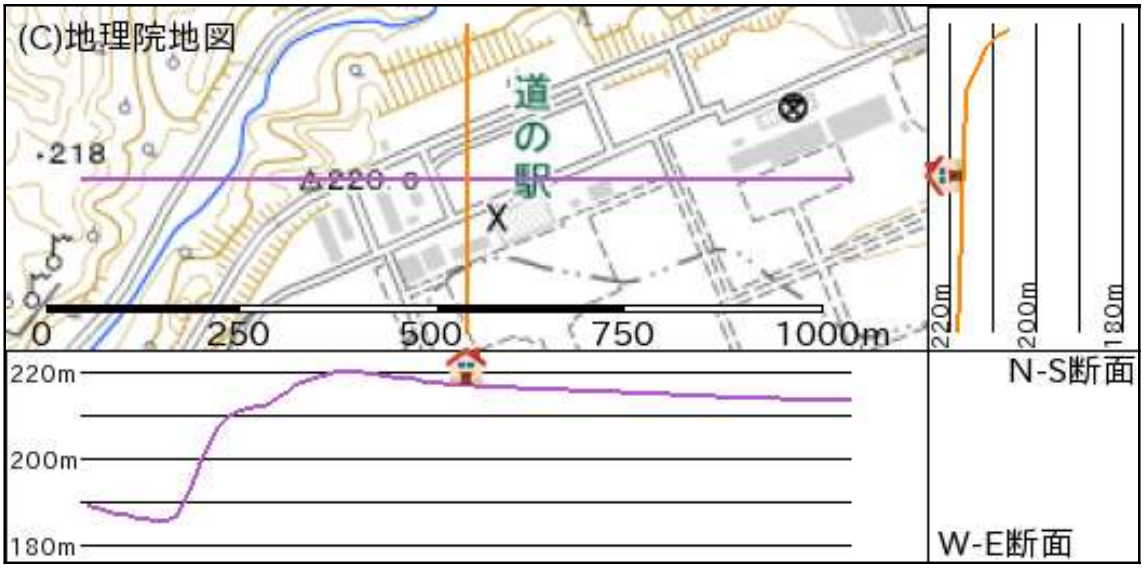


この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を使用した。（承認番号　平28情使、第373-16号）

旧版地形図とは？

旧版地形図とは、古い年代に作成された地形図のことです。最新の地形図と見比べることで、敷地の前歴などを知ることができる土地の履歴書のような資料です。

地形図



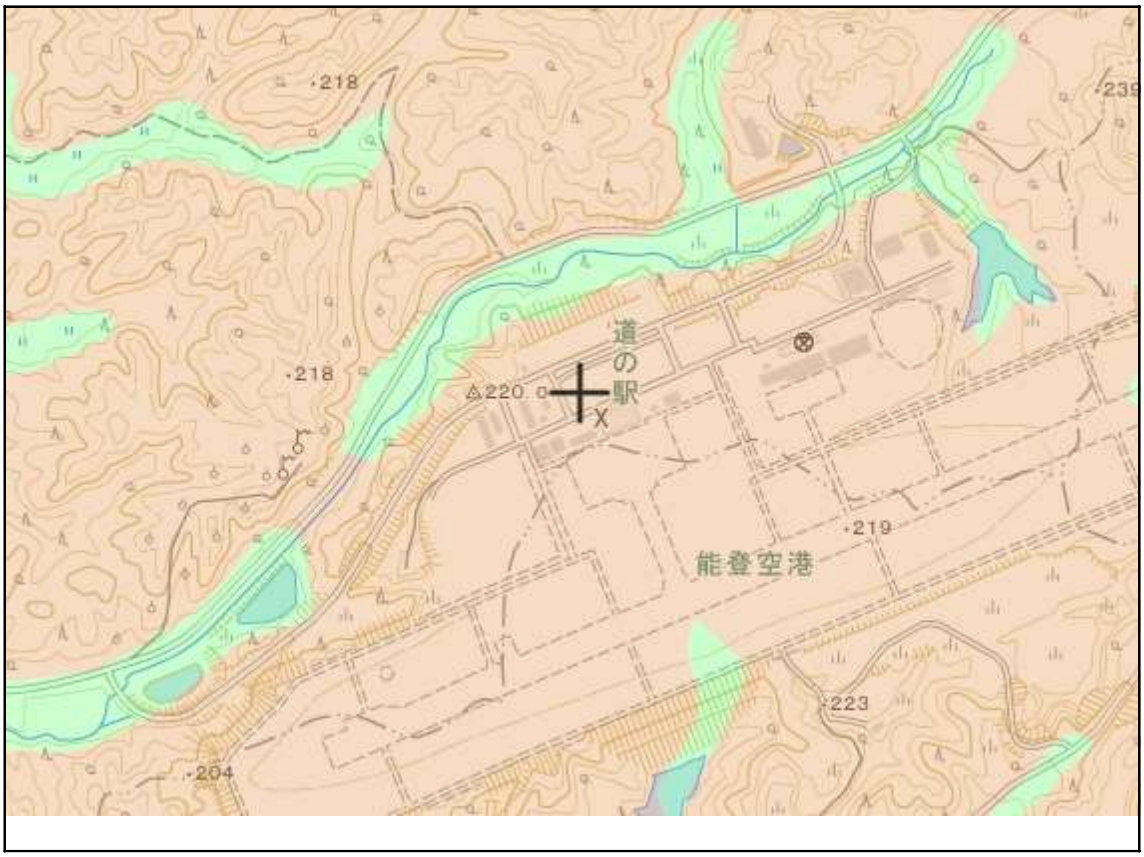
地理院タイル（標高タイル）を利用して作成　　※地形図内に表示した断面図の標高は、地域により精度誤差が生じる為、参考値としてください。

地形図とは?

土地の高低差もふくめた地球の様子を表した地図です。土地の高低差を表す等高線、地図記号などが使用され、利用状況や高低差を知ることができます。

地形区分

現地の分類結果　山地・丘陵



国土交通省発行　重ねるハザードマップ　土地分類基本調査図（地形分類ベクトルタイル）より　複写・添付

地形区分とは？

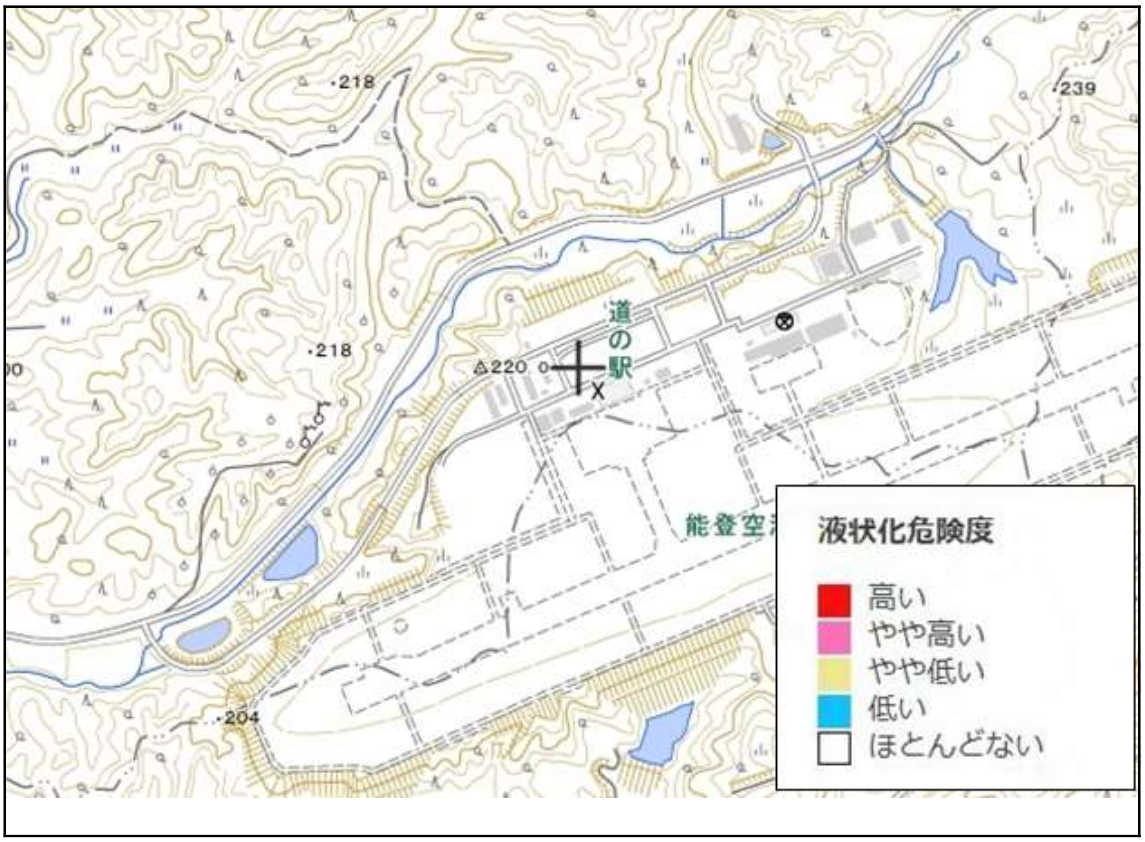
地形の種類によって土地を分類し，色や記号などでわかりやすく区分表示した地図です。地形分類に応じて、沈下の可能性や液状化の可能性などをある程度把握することができます。

	地形分類	地盤の特長
	山地・丘陵	尾根や谷からなる周囲より高い土地や、傾斜の急な土地
	谷底平野・氾濫平野	山間地や台地などの間を流れる河川沿いにあって幅の狭い低地。また、河川の氾濫により土砂などが堆積してできた広く開けた平坦な低地。主に砂や礫、泥などからなることが多い。



液状化マップ／ハザードマップ

現地の分類結果	ほとんどない



石川県液状化危険度分布図（加賀平野の地震）

液状化マップとは？

地形区分や過去に実施された標準貫入試験をもとに液状化発生の危険度を示した地図のことです。
液状化発生の可能性を判断するための目安となります。

ハザードマップとは？

発生が予想される自然災害に対して、被害の及ぶ範囲・程度、避難の道筋、避難場所等を表した地図です。
地震、河川の氾濫、津波・高潮など、災害の種類に応じた予測図を政府、各自治体が公開しています。

※液状化の評価は、あくまでも公的機関より入手できる資料を基に簡易的に行っているものです。
※本内容は補助的資料としてご提供するものであり、評価の精度を求める場合は別途室内土質試験による液状化検討が必要です。

地盤調査

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）

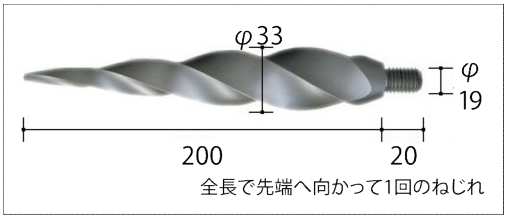
スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）とは？

スウェーデン国有鉄道が1917年頃、不良路盤の試験方法として採用し、その後スカンジナビア諸国で普及しました。1954年頃建設省（現国土交通省）が堤防の地盤調査として導入したのが始まりです。1976年にはJIS規格（JIS A 1221）に制定され、現在では戸建住宅向けの地盤調査のほとんどが本試験によって実施されています。試験機は、手動（すべての作業が手動で行われるもの）、半自動（回転だけが機械式に自動で行われるもの）及び全自動（回転・載荷・試験記録全てが機械式に自動で行われるもの）があります。 ※2020年10月試験名称変更　スウェーデン式サウンディング試験→スクリューウエイト貫入試験

試験装置及び器具

試験装置は、「スクリューポイント」「ロッド」、「載荷・回転・引抜き装置」からなり、スクリューポイントにロッドを介して荷重を載荷したときの荷重と貫入量の関係、及び1.0kNの荷重で貫入停止後、ロッドを回転させたときの回転数と貫入量との関係を求めることのできる装置です。

※ スクリューポイントは、摩耗しにくいもので右記に示す形状のものとする。

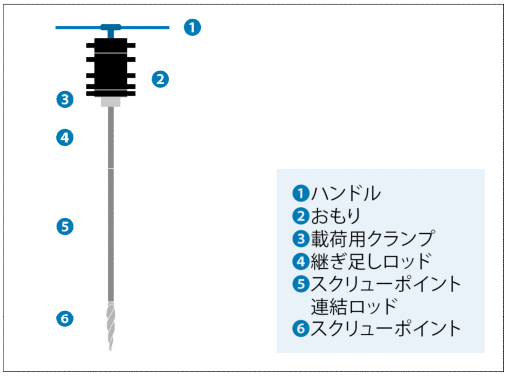


ロッドの規定

ロッドは鋼製とし、スクリューポイント連結ロッド:径19mm、長さ800mmでロッド連結端から250mmごとに目盛りがあるもの。継足しロッド:径19mm、長さ1000mmでロッド連結端から250mmごとに目盛りがあるもの。

回転装置の規定

回転装置は、1.0kNの荷重による貫入が停止した後、荷重を保持したまま右回りで回転させるもので、回転速度は1分間に15回転～40回転の範囲にあるもの。



試験方法

1. 長さ0.8mのロッド先端にスクリューポイントを取り付け、調査地点に鉛直に立てて支える。
2. ロッドが地中に貫入するかどうかを確かめ、貫入する場合は荷重に対する貫入量を記録し、貫入しない場合は荷重を順次載荷し（荷重段階は0.5kN、0.75kN、1.0kN）途中貫入する場合は荷重に対する貫入量を記録し、その操作を繰り返す。
3. 載荷荷重1.0kNで貫入が止まった場合には、次のロッド目盛線（25cm）まで貫入させるのに要する半回転数を記録する。
4. 測定が終了したら、載荷荷重を取り除き、貫入した全ロッドを引き抜き、ロッド本数及びスクリューポイントの異常の有無を調べる。

試験結果の記録と整理

1. 回転貫入でなく荷重だけによって貫入が進む場合には、荷重の大きさとスクリューポイント先端の地表からの貫入長を記録する。
2. 載荷重1.0kNで、回転によって貫入が進む場合には、半回転数Naに対応する貫入後のスクリューポイント先端の地表からの貫入長を記録し、その時の貫入量（L）を計算する。
3. Lに対応するNa値は次式を用いて、貫入量1m当たりの半回転数Nswに換算して記録する。
   Nsw＝4Na（L＝25cmの場合）-Nsw:貫入量1m当たりの半回転数（回/m）
   Na:半回転数（回）　L:貫入量（cm）
4. 貫入速さが急激に増大したり減少する場合には、貫入状況を詳しく記載する。
5. 試験結果は縦軸に地表からの深さD、横軸に荷重の大きさWswと貫入量1m当たりの半回転数Nswとをとって図示する。

試験データの見方

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量1m当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算N値 N	支持力検討範囲
0.50	自沈	0.25	25	0	無音					1.5	30.0
0.75	自沈	0.50	25	0	〃					2.3	30.0
1.00	自沈	0.75	25	0	〃					3.0	30.0
1.00	3	1.00	25	12	〃					3.6	37.2
1.00	20	1.25	25	80	〃					7.0	78.0
1.00	16	1.50	25	64	ガリガリ					6.2	68.4
		1.75	25		打撃					-	
		2.00	25		〃					-	



専門用語

荷重 Wsw(N)	1.0kN（≒100kg）までの段階的荷重
半回転数 Na(回)	1.0kN（≒100kg）積載荷重で最大25cm貫入するのに要した半回転数
自沈(無回転)	1.0kN（≒100kg）までの段階的荷重だけで貫入する状態
貫入長 D(m)	地表面からスクリューポイント先端までの累積深度
貫入量 L(cm)	最大25cm毎に区切り、貫入した深度
1m当たり半回転数 Nsw(回)	半回転数Naを1m当たりの半回転数に換算した数値
孔内水位	調査孔を利用し簡易測定した孔内水位
推定柱状図	貫入時の音、感触、貫入状態から推測される土質の柱状図

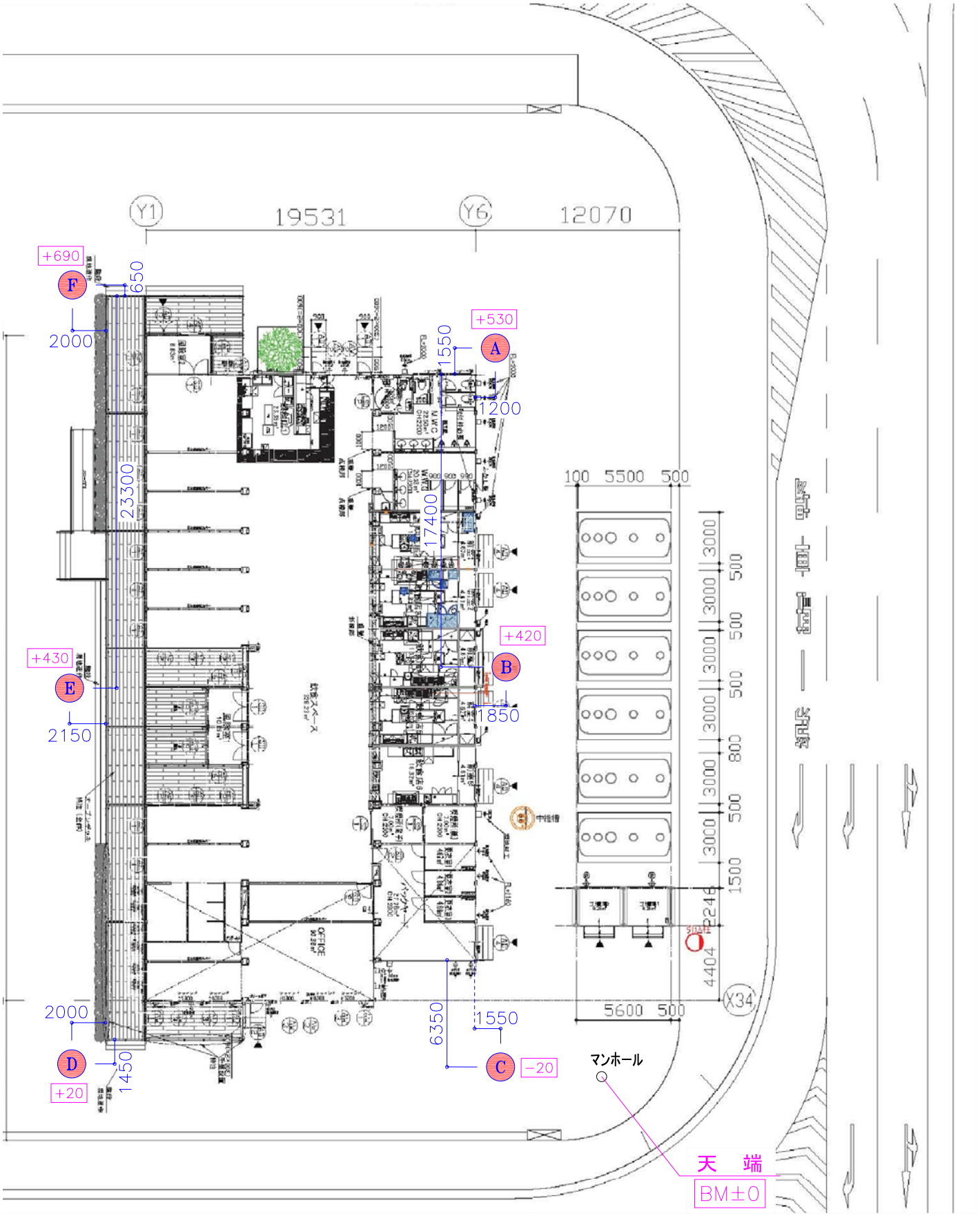
記事

ストン	自沈による貫入状況（落ちる様な感じ）
スルスル	自沈による貫入状況（滑るようになめらかな感じ）
ユックリ	自沈による貫入状況（貫入が遅い感じ）
ジンワリ	自沈による貫入状況（少しずつ徐々に貫入する感じ）
シャリシャリ	砂等がスクリューポイントに絡んだ時の貫入音（感触）
ジャリジャリ	砂、礫等がスクリューポイントに絡んだ時の貫入音（感触）
ガリガリ	砂、礫、転石等がスクリューポイントに絡んだ時の貫入音（感触）
掘削	掘削（試掘）等をした時
打撃	スクリューポイントがガラ、礫、転石等に当り貫入不可となり、打撃している状態
空転	ガラ、瓦礫等や擁壁のベース等に当たり貫入不可となった状態

換算N値

粘性土	N値　3Wsw+0.050Nsw
砂質土	N値　2Wsw+0.067Nsw

調　査　位　置　図



Y1
19531
Y6
12070
+690
F
650
2000
+530
A
1550
1200
23300
17400
+430
E
2150
+420
B
1850
100
5500
500
3000
500
800
1500
2246
4404
X34
5600
2000
D
1450
+20
6350
1550
C
−20
マンホール
天　端
BM±0

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	A
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　+530 mm	最終貫入長	2.45 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	80	0.50	25	320	打撃併用					23.4	
1.00	82	0.75	25	328	〃					24.0	
1.00	85	1.00	25	340	〃					24.8	
1.00	6	1.25	25	24						3.6	
1.00	21	1.50	25	84						7.6	
1.00	42	1.75	25	168						13.3	
1.00	11	2.00	25	44						4.9	
1.00	80	2.25	25	320	打撃併用					23.4	
1.00	93	2.45	20	372	〃					33.2	

終了事由	地中障害物に当たり貫入不可

凡例　砂質土

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	B
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　+420 mm	最終貫入長	1.15 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	84	0.50	25	336	打撃併用					24.5	
1.00	81	0.75	25	324	〃					23.7	
1.00	86	1.00	25	344	〃					25.0	
1.00	160	1.15	15	640	〃					73.5	

終了事由	地中障害物に当たり貫入不可

凡例

砂質土

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	C
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　-20 mm	最終貫入長	1.20 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	84	0.50	25	336	打撃併用					24.5	
1.00	87	0.75	25	348	〃					25.3	
1.00	90	1.00	25	360	〃					26.1	
1.00	135	1.20	20	540	〃					47.2	

終了事由	地中障害物に当たり貫入不可

凡例

砂質土

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	D
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　+20 mm	最終貫入長	0.60 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	87	0.50	25	348	打撃併用					25.3	
1.00	110	0.60	10	440	〃					75.7	

終了事由	地中障害物に当たり貫入不可

凡例

砂質土

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	E
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　+430 mm	最終貫入長	5.80 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	89	0.50	25	356	打撃併用					25.9	
1.00	80	0.75	25	320	〃					23.4	
1.00	84	1.00	25	336	〃					24.5	
1.00	85	1.25	25	340	〃					24.8	
1.00	81	1.50	25	324	〃					23.7	
1.00	23	1.75	25	92						8.2	
1.00	43	2.00	25	172						13.5	
1.00	41	2.25	25	164						13.0	
1.00	30	2.50	25	120						10.0	
1.00	13	2.75	25	52						5.6	
1.00	13	3.00	25	52						5.6	
1.00	15	3.25	25	60						6.0	
1.00	10	3.50	25	40						5.0	
1.00	13	3.75	25	52						5.6	
1.00	39	4.00	25	156						10.8	
1.00	30	4.25	25	120						9.0	
1.00	23	4.50	25	92						7.6	
1.00	12	4.75	25	48						5.4	
1.00	12	5.00	25	48						5.4	
1.00	11	5.25	25	44						5.2	
1.00	19	5.50	25	76						6.8	
1.00	65	5.75	25	260						16.0	
1.00	60	5.80	5	240						63.0	

終了事由	貫入量5ｃｍ当たりの半回転数50回以上確認

凡例　砂質土　粘性土

スクリューウエイト貫入試験（スウェーデン式サウンディング試験）データ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事			測点番号	F
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1			年 月 日	2024年10月8日
標　高	BM　+690 mm	最終貫入長	1.90 m	試 験 者	石井　明
孔内水位	水位なし	天　候	曇	機械の種類	半自動

荷重 Wsw kN	半回転数 Na	貫入長 D m	貫入量 L cm	1m当たり半回転数 Nsw	記事	孔内水位	推定柱状図	荷重Wsw kN 0.25 0.50 0.75	貫入量１ｍ当り半回転数 Nsw 50 100 200	換算 N値 N	支持力検討範囲
		0.25	25		掘削					-	
1.00	69	0.50	25	276	ガリガリ					20.5	
1.00	87	0.75	25	348	打撃併用					25.3	
1.00	81	1.00	25	324	〃					23.7	
1.00	85	1.25	25	340	〃					24.8	
1.00	72	1.50	25	288	ガリガリ					21.3	
1.00	9	1.75	25	36						4.4	
1.00	160	1.90	15	640	打撃併用					73.5	

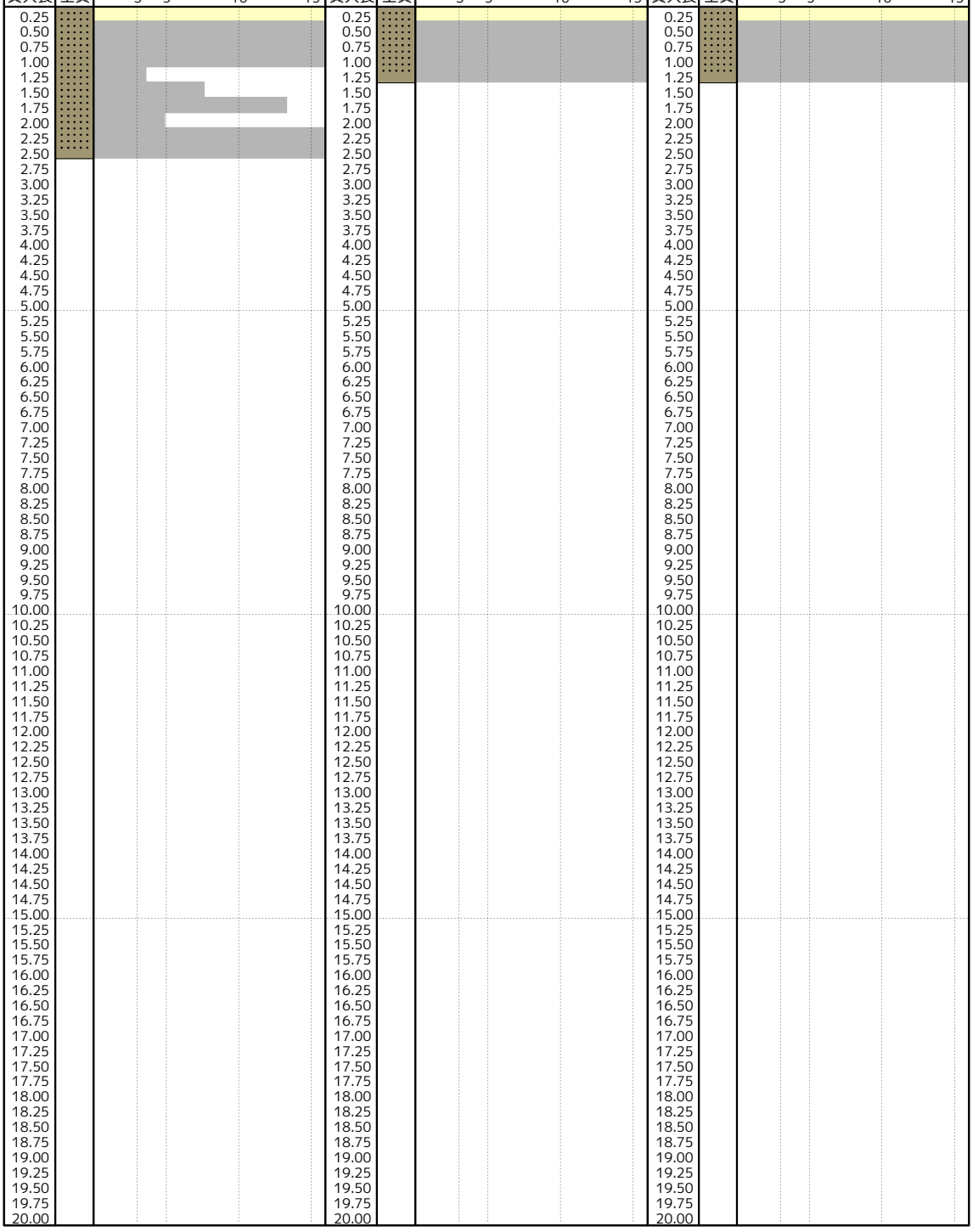
終了事由	地中障害物に当たり貫入不可

凡例　砂質土

N値グラフ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事	調 査 日	2024年10月8日
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1	試 験 者	石井　明

A	標高 BM +530 mm	孔内水位なし	B	標高 BM +420 mm	孔内水位なし	C	標高 BM -20 mm	孔内水位なし

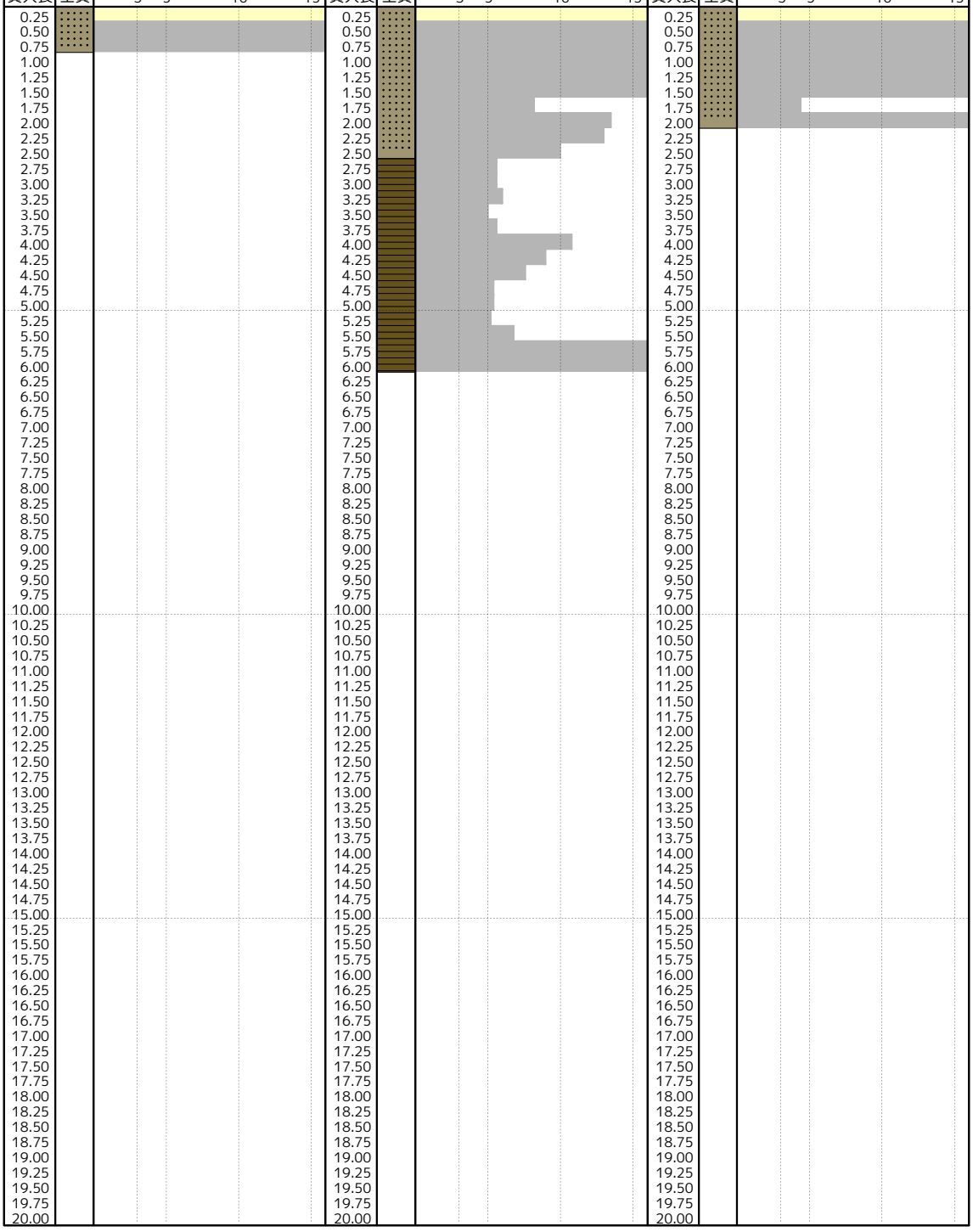


凡例　0.75～1.0kN自沈層　0.50kN以下自沈層

N値グラフ

物件名称	のと里山空港フードコート　新築工事	調 査 日	2024年10月8日
物件住所	石川県輪島市三井間知洲衛10-11-1	試 験 者	石井　明

D	標高 BM +20 mm	孔内水位なし	E	標高 BM +430 mm	孔内水位なし	F	標高 BM +690 mm	孔内水位なし



凡例　0.75～1.0kN自沈層　0.50kN以下自沈層

地盤の許容支持力度

地盤の長期許容支持力度※ 102.16 kN/㎡

※支持力度の最小値を採用しています（但しqa=0.00は対象外とする）

測点	検討範囲（m）			$\overline{Wsw}$（kN）	$\overline{Nsw}$（回）	qa（kN/㎡）
A	0.25	～	2.25	1.00000	112.75	102.16
B	0.25	～	1.15	1.00000	150.00	126.00
C	0.25	～	1.20	1.00000	150.00	126.00
D	0.25	～	0.60	1.00000	150.00	126.00
E	0.25	～	2.25	1.00000	142.75	121.36
F	0.25	～	1.90	1.00000	133.71	115.57

長期許容支持力は、日本建築学会「小規模建築建物基礎設計指針」で推奨している次式により算定する。

$$qa = 30\overline{Wsw} + 0.64\overline{Nsw}$$

記号

qa	長期許容支持力度(kN/㎡)
$\overline{Wsw}$	基礎底面より下2mまでのSWS試験における貫入時の荷重の平均値(kN)
$\overline{Nsw}$	基礎底面より下2mまでのSWS試験における貫入量1mあたりの半回転数(150を超える場合は150とする)の平均値(回)

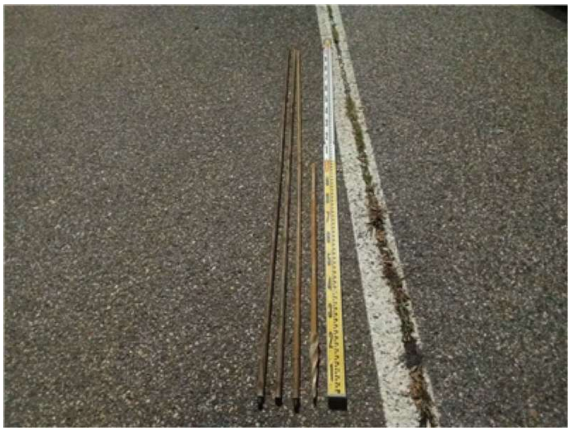
地盤の長期許容支持力度とは？

地盤が破壊・沈降することなく耐えることができる荷重のことです。
ただし、許容支持力度が所定の数値以上を示していたとしても、他のさまざまな地盤条件により地盤補強対策の検討が必要となる場合があります。

のと里山空港フードコート　新築工事



SWS測定状況	スクリューポイント検尺



SWS測定状況	ロッド検尺



SWS測定状況	測定点A 調査前



SWS測定状況	測定点A 最終貫入状況



SWS測定状況	測定点B 調査前



SWS測定状況	測定点B 最終貫入状況

のと里山空港フードコート　新築工事



SWS測定状況	測定点C 調査前



SWS測定状況	測定点C 最終貫入状況



SWS測定状況	測定点D 調査前



SWS測定状況	測定点D 最終貫入状況



SWS測定状況	測定点E 調査前



SWS測定状況	測定点E 最終貫入状況

のと里山空港フードコート　新築工事

			
SWS測定状況	測定点F 調査前	SWS測定状況	測定点F 最終貫入状況

のと里山空港フードコート　新築工事



BM	BM(近景)



現場状況（地盤調査）	調査地全景



現場状況（地盤調査）	調査地全景



現場状況（地盤調査）	調査地全景



現場状況（地盤調査）	調査地全景



現場状況（地盤調査）	道路

のと里山空港フードコート　新築工事



現場状況（地盤調査）	道路



現場状況（地盤調査）	道路



現場状況（地盤調査）	道路



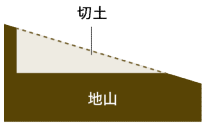
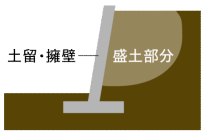
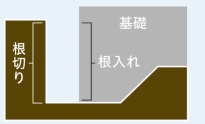
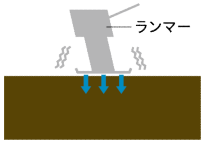
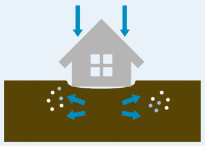
現場状況（地盤調査）	道路



現場状況（地盤調査）	道路

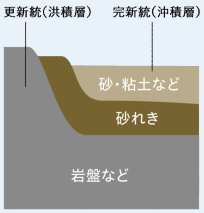
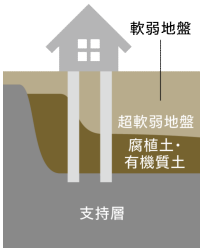
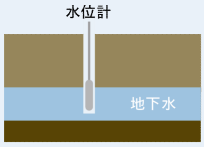
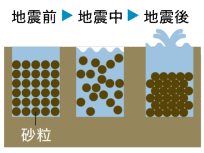
用語集

地盤調査で使用されている使用頻度の高い専門用語を解説いたします。

! 盛土造成		低い地面や斜面に土を盛り、平坦、もしくは周囲より高い地表にすることを盛土と言います。盛土は空気や水分を多く含み、軟弱な状態にあることが多いです。軟弱地盤への盛土がなされた場合や、盛土が転圧不足の場合には不同沈下の原因になります。
切土造成		傾斜地などを造成する際に、斜面を削って平らな敷地を造成することを切土と言います。切土は元々の地面を切っただけなので、固く締まった状態を維持しています。
! 埋戻し造成		擁壁設置などの作業をするために、掘り起こした土を戻すことを埋戻しと言います。本来の地盤を乱すこととなり、充分な締め固めや固化がなされていないと不同沈下の原因となります。
! 擁壁・土留		土留は、盛土や切土された地盤を支える壁で、土の崩壊を防止するために造る「土を留める」建造物です。擁壁は土留の一種で、主に鉄筋コンクリート造の建築物を指しています。
根入れ・根切り		根入れとは、地表から杭、基礎、擁壁など地中に埋設した部分の最下部までの深さのことです。一方根切りは、基礎や地下構造物などを造る場合に、地面を掘削して必要な空間を造ることを指しています。
ランマー 転圧補強		基礎底面下の締め固めを目的に、ランマーという機械を用いて地面に圧力をかける補強作業です。基礎底面下の砕石を締め固める重要な工程となります。
! 圧密沈下		水や空気を多く含んだ地盤に建物などを建設した際、その重さで土中の水や空気が抜け、体積が減少することによって生じる地盤沈下現象です。
! 即時沈下		地盤が荷重を受けたとき、載荷とほぼ同時に生じる沈下現象で、粘着力の弱い砂質土に見られます。
! 不同沈下		地盤の状態や基礎の耐力不足などの理由で、建物が場所により異なる沈下をする現象です。建物が傾いたり、大きなひびが入ったりする重大な被害の要因となります。

※ ! が記されている用語は、地盤が軟弱な傾向を示していたり沈下の要因に関連した用語です。

用語集

更新統（洪積層） 住宅地盤調査の基礎と実務 -地盤をみる- 参照		約2万年前に形成された地層を指します。一般的に古い時代に形成された地盤ほど堅固であり、洪積層は固結しているので構造物の基礎を支持する良好な地盤です。 代表的な例としては、関東ロームなどが挙げられます。
! 完新統（沖積層） 住宅地盤調査の基礎と実務 -地盤をみる- 参照		約2万年前以降に形成された地層を指します。地盤は未固結で、広域的な圧密沈下や地震による液状化がしばしば問題となる地層です。圧密沈下や不同沈下も起こりやすい注意が必要な地盤です。
支持層・ 支持地盤		建物荷重を基礎や改良杭で伝達して支えることができる地層・地盤のことです。直接基礎の場合は、基礎底面下-5.0m程度までの地層を指し、地盤改良や杭基礎の場合には、杭の先端部分の地層を指します。
! 腐植土・ 有機質土		植物が堆積してできた非常に軟弱な土質です。圧縮性が高く、水を多く含むことから、腐植土層が厚い場合には沈下量も大きくなると考えられます。また、酸性を示すため、中和反応によりセメント系固化材が固まりにくい特徴があります。
! 地下水位		貫入調査後の孔(穴)に水位計等を挿入し、地下水の深度を計測します。地下水の有無、深度は液状化や地盤判断に大きく影響する要素となります。
長期許容 支持力度		地盤が建物の重さを支える力の限界値（※）を示しています。建物を地盤が安全に支えるためには、建物の重さが長期許容支持力度以下の重さでなければなりません。 ※極限支持力を所要の安全率で割った値
N値・換算N値		N値とは、ボーリング・標準貫入試験結果から得られる地盤の硬軟を示す測定値です。換算N値とは、試験結果から、N値に相当する値を換算式を用いて求めたものです。
! 液状化現象		地震の揺れにより、地盤の水分が砂と一緒に液体のように噴き出す現象です。地下水位が浅く緩い砂地盤で起こりやすく、地盤に亀裂や沈下が発生することにより、建物や構造物に大きな被害が生じます。
! 自沈・自沈層		1.0kN以下の重さでロッドが自然と沈んでいく地層を自沈層と呼びます。 一般的に750N以下で沈む場合は、軟弱地盤と考えられます。

※ ! が記されている用語は、地盤が軟弱な傾向を示していたり沈下の要因に関連した用語です。

株式会社トラバース会社案内

測量・地盤調査・地盤改良工事のスペシャリストとして、
安全・安心な住まいを地盤からサポートします。







事業内容

測量調査

現況測量

間口、奥行き、敷地の形状や面積、家屋形状、高低差等を測ります。

真北測定

太陽観察を行い、計算で真の北を求めます。

近隣日影図

近隣建物の影の動きを調査し、生活に最適な間取りプランニングをサポート。

一言コメント

図面では表現できないお客様情報や、近隣情報等をお伝えします。

地盤調査

スクリューウエイト貫入試験

戸建て住宅向けに、地盤の硬軟、締まり具合及び土層構成を評価する為の静的貫入抵抗を求める試験です。

資料調査

年間約5万件の豊富な調査データから地域地盤特性を見極めます。

サンプリング調査

実際に土を取って土質を確認。各種判定や土質試験に流用できます。

ラムサウンディング試験（支持層確認）

標準貫入試験のN値と相関性が高く、N値50程度の硬い層まで確認ができます。

室内配合試験

サンプリングした土を使って圧縮試験を実施。改良杭の品質管理や経済設計に役立ちます。

ボーリング調査(標準貫入試験)

大規模な建造物を建築する際、一般的に用いられる地盤調査です。自社開発したマシンで安全性・作業効率向上を実現しています。

液状化判定

サンプリングした土を使って粒度試験を実施。地表面に及ぼす液状化の影響の程度を判定します。

簡易動的コーン試験

標準貫入試験を小型化したものとして表現。狭小搬入路、傾斜地での調査に対応。